

令和6年度 音声教材普及推進会議 実施要項

1. 趣旨

発達障害等により、通常の検定教科書等において一般的に使用される文字や図形等を認識することが困難な児童生徒に向けた教科用特定図書等としての音声教材について、各教育委員会等の教科用特定図書等の担当者等に対して周知を図り、もって音声教材の普及推進に資することを目的として本会議を開催する。

2. 対象者

- (1) 各都道府県教育委員会の教科用特定図書等担当者
- (2) 市区町村教育委員会の教科用特定図書等担当者
- (3) 学校の教員、保護者等

3. 開催日程等

日時：令和6年9月17日（火） 13：00～16：00

会場：愛媛大学グリーンホール（愛媛県松山市文京町3番）

なお、当日の様子はライブ配信するとともに、後日文部科学省ホームページに掲載する。

4. プログラム

- | | |
|----------------------------------------------|-------------|
| (1) 開会 | 13：00 |
| (2) 文部科学省行政説明 | 13：00～13：15 |
| (3) 講演 | 13：15～13：40 |
| 「学校現場におけるアセスメントと読み書き支援体制の整備」 | |
| 東京大学先端科学技術研究センター 近藤 武夫 教授 | |
| (4) 音声教材の活用事例紹介 | 13：40～14：30 |
| (音声教材を製作する団体の関係者が出席し、各音声教材の活用事例等について御紹介します。) | |
| (5) 閉会 | 14：30 |
| (6) 音声教材体験会 | 14：30～16：00 |
| (会場にて、音声教材のサンプルをご覧いただくことができます。 | |
| 音声教材を製作する団体の関係者が対応します。) | |

音声教材の特徴・使用方法等については、各製作団体*の説明動画・資料を文部科学省ホームページに掲載するので、適宜参照してください。

掲載 URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/1422882_00003.htm

※令和6年度 音声教材等の効率的な製作方法等に関する調査研究 受託団体

- ・公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会（マルチメディアデイジー教科書）
- ・東京大学先端科学技術研究センター（AccessReading）
- ・特定非営利活動法人エッジ（音声教材 BEAM）
- ・茨城大学（ペンでタッチする音声付教科書）

- ・広島大学（UD・Book）
- ・愛媛大学（UNLOCK）

5. 参加登録

都道府県教育委員会は、上記「対象者」に該当する域内の参加希望者を取りまとめ、文部科学省教科書課あて提出すること。

6. 質問事項等記入用紙の提出

- （1）本会議における情報発信等の参考とするため、都道府県教育委員会の教科用特定図書等担当者は、域内の市区町村教育委員会において音声教材に関する質問事項等があれば取りまとめ、文部科学省初等中等教育局教科書課宛て提出すること。
- （2）質問事項等を提出する際には、あらかじめ、下記URLにおいて掲載している過去の音声教材普及推進会議の配布資料・説明動画や音声教材に関するQ & A等を確認すること。

（文部科学省ウェブサイト）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/1374019.htm

7. その他

- （1）本会議の事務局は文部科学省初等中等教育局教科書課が行う。
- （2）参加者の旅費は各教育委員会等の負担とする。
- （3）本会議の参加者数が会場の収容人数を超えた場合は、参加者数を調整する場合がある。
- （4）その他、本会議の開催に必要な事項は別に定める。

日本語に通じない児童生徒が 音声教材を使用して 学習できるようになりました！



文部科学省

教科書バリアフリー法改正のポイント

近年、外国人児童生徒等（日本語指導が必要な外国籍・日本国籍の児童生徒）は増加しており、

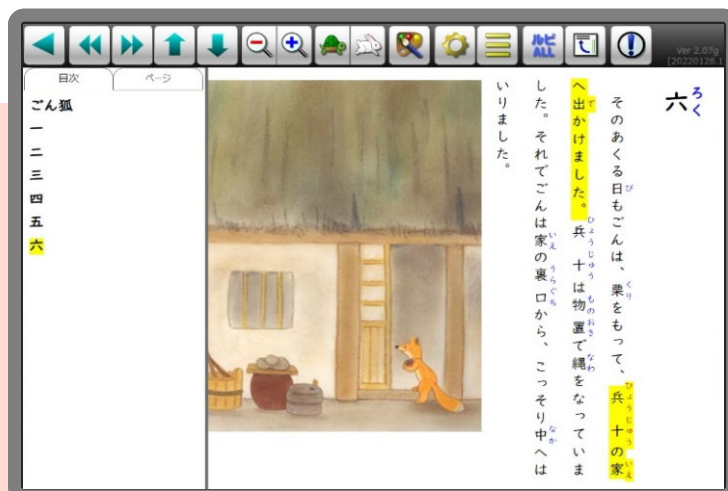
障害のある児童及び生徒のために作成されている音声教材が、教科用図書の使用に困難を有する日本語に通じない児童及び生徒にとっても有用であること等に鑑み、

これらの者が音声教材を使用して学習することができることとなるよう、必要な改正を行うものです。

【令和6年6月19日公布・令和6年7月19日施行】

音声教材とは

音声教材の機能を活用すると、
「教科書を読む」ことの困難さを軽減
することができます。



▲マルチメディアデジ教科書（公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会）の画面イメージ「ごんぎつね」

音声教材の主な特徴・機能

パソコンや
タブレット端末
を使用する

教科書の
内容を音声で
読み上げる

読んでいる
箇所を
ハイライト表示

漢字に
ルビを表示

文字の
拡大・縮小

文字色・
背景色の変
更

等

ほかにも、紙冊子を音声ペンでタッチして使用する教材、音声のみの教材など、様々な形式の教材があります。

**音声教材は各製作団体にて申請を受け付けますので、
詳細は下記ウェブサイトでご確認ください。**

文部科学省「音声教材」に関するページ

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/1374019.htm

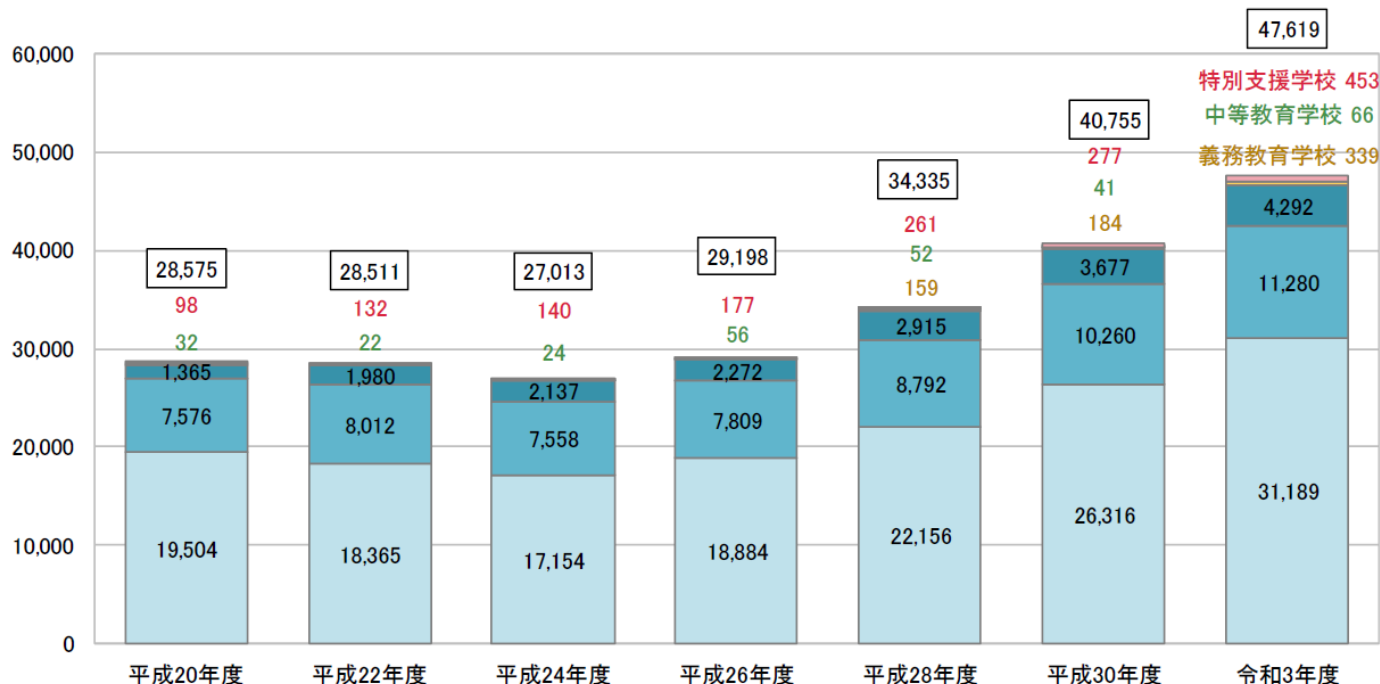
「障害のある児童及び生徒のための教科用特定図書等の普及の促進等に関する法律」の趣旨にのっとり、文部科学省の委託事業により製作・提供しています。



【お問い合わせ先】 文部科学省 初等中等教育局 教科書課 教科用特定図書普及促進係
TEL：03-5253-4111（内線4743）

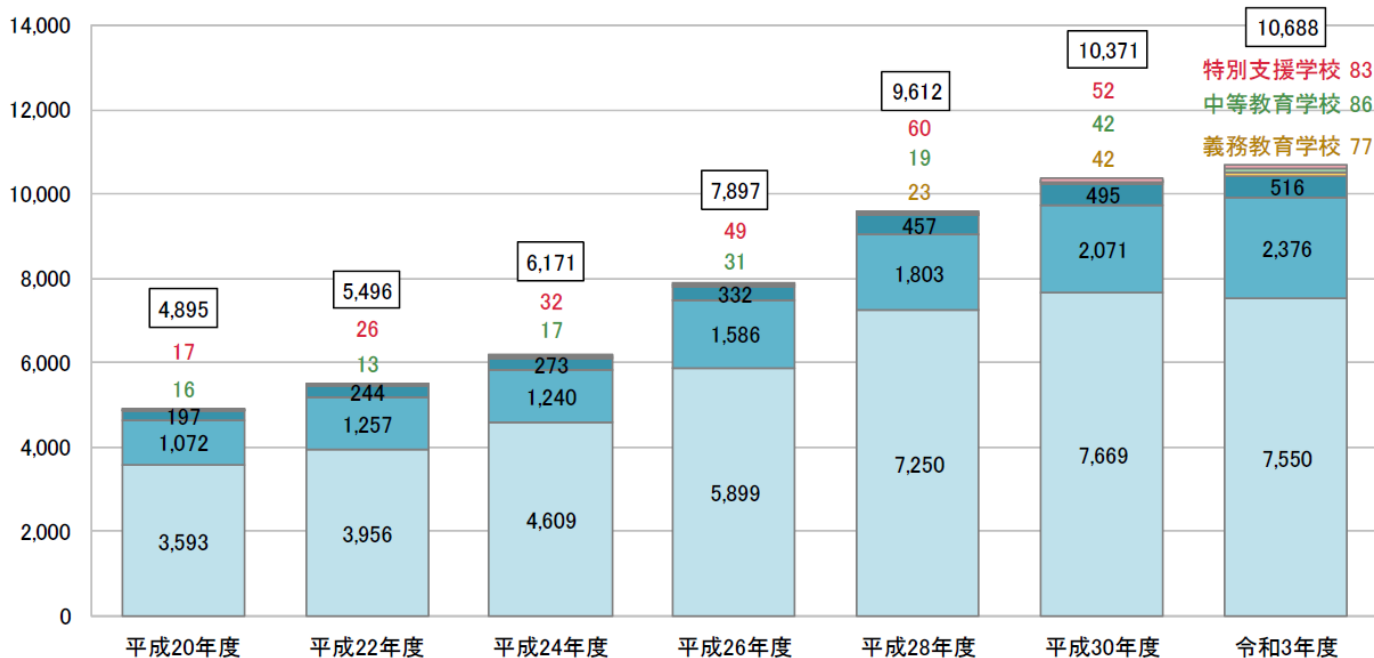
日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数

□ 小学校 ■ 中学校 ■ 高等学校 ■ 義務教育学校 ■ 中等教育学校 ■ 特別支援学校 □ 合計



日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒数

□ 小学校 ■ 中学校 ■ 高等学校 ■ 義務教育学校 ■ 中等教育学校 ■ 特別支援学校 □ 合計



日本語指導が必要な児童生徒数は、令和3年度現在、合計58,307人。

日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（令和3年度）より
※令和3年5月1日現在で行った調査の結果